

事業所名

ビーフレンズ 西京極校

支援プログラム

作成日

令和7年

9月

30日

法人（事業所）理念		「視覚あそび」「体幹あそび」「自立れんしゅう」の三大療育を軸に掲げ、当所独自の療育を実践することで、日常生活の中で目に見える変化を児童本人にも保護者にも実感していた。保護者と情報を共有し協力を得て行う「協育」を理念に、地域の方々や保護者と一緒に子どもの豊かな心を育てていくことを目指す。						
支援方針		視覚あそび(個別療育)…情報をしっかりと目でとらえるため、視覚トレーニングとして目の準備体操と紙面を使った様々な視覚あそびを、スタッフと1対1で行う。 体幹あそび(集団療育)…身体の軸をつくり呼吸を深くし脳を活性化するため、理論に基づいた多数のトレーニング方法をスタッフと一緒に遊びながら行う。 自立れんしゅう(集団療育)…社会での自立に向けて、身の回りのことが自分でできる、生きる力を育てることを目標に、「食べる」をテーマに繰り返し練習する。						
営業時間		9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	栄養士が作り提供するおやつやクッキングを通し、季節感や日本の伝統を知ったり、様々な食材や調味料に触れられるようにしている。また、調理活動では、自分たちで考え判断しながら食材を切ったり調理して味付けをしたりすることで達成感を味わい、社会への自立に向けた力を養う。その他、偏食が強い場合、チャレンジできる心をはぐくみ、食べられるものを少しずつ増やしていけるようにしていく。また、日々の療育の総まとめとして、公園や様々な施設へのお出かけ活動を行い、順番を守る、交通ルールを守って道路を歩くなど、日常生活に必要なスキルを養い実践する場になっている。						
	運動・感覚	視覚あそびとして、「跳躍性眼球運動」「追従性眼球運動」「目と手の協応」等を意識した課題を1：1で取り組む中で学習の土台を積み上げていく。体幹あそびでは、ケガをしない体づくりをテーマに、「体のコントロール」「自己認知」「受け身等の反射の能力」等を意識した活動を取り入れていく。また、工作やクッキング等を行う中で、手指の巧緻性や感覚を養っている。						
	認知・行動	活動ごとの切り替え場面等を視覚的や声掛け等を通じて意識できる事で、気持ちの切り替えができるようにしている。それぞれの強みをしっかり大切に、1人1人が強みを理解し、活かすことで自己肯定感を高めていく事が出来る場所にならしていく。自分らしさを大切に、生活できる場所になっている。						
	言語コミュニケーション	子どもたちの興味関心に寄り添い、相互的なやり取りを通じて自然に言葉やコミュニケーションの発達を促していくことができるようにしている。言語コミュニケーションだけで補えない場合は、絵カードやマカトンサインなど別の手法でコミュニケーションができるようにしている。ヘルプの発信力を高め、困ったときに解決する力を養っていく。理解の支援では、口頭指示のみでなく、視覚的支援を合わせて行うことでできることを増やすことができるように支援する。						
	人間関係社会性	体幹あそび、自由あそび、外出等の様々な活動で、「自分の思いを伝える」「相手の思いを聞く」「意見のすり合わせ」等、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの向上出来るようにしている。その中で、他者視点の確保を目指す。誰かを思いやれる力を育む場所とする。						
家族支援		ペアレントトレーニング、保護者への個別相談、関係機関とのケース会議			移行支援		関係機関との連携会議、医療機関・リハビリ施設での施術の見学	
地域支援・地域連携		児童館交流、地域散策			職員の質の向上		年間研修計画、療育会議、事業所会議、外部研修	
主な行事等		夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、お餅つき、系列事業所同士での交流会						